

宮城県行政評価委員会政策評価部会 (令和8年度第3回)

日 時：令和8年7月22日（水曜日）

午後3時から午後5時まで

場 所：宮城県行政庁舎6階 企画部会議室
(対面、オンライン併用)

1. 開会

2. 議事

- (1) 令和8年度政策評価・施策評価に係る県民意見について
- (2) 令和8年度政策評価・施策評価に係る審議について
- (3) 令和8年度政策評価・施策評価に係る答申案について

3. その他

4. 閉会

○阿部課長補佐兼企画員（班長） ただ今から「令和8年度第3回宮城県行政評価委員会 政策評価部会」を開催いたします。

なお、本日の行政評価委員会政策評価部会は、対面方式とリモート方式の2つの形式での開催となりますが、リモートで参加される方に配慮し、御発言の際はお手元のマイクの御使用をお願いいたします。また、ハウリングの恐れがありますので、御発言の時以外はマイクの電源はお切りいただきますようお願いいたします。

はじめに、本日お集まりの委員の皆様及び県の職員についてですが、お配りしている次第の次ページに出席者名簿がございますので紹介に代えさせていただきます。

続きまして、定足数の報告をさせていただきます。

本日は、佃委員から欠席報告がなされております。また、舘田委員からは冒頭より15分ほど遅れて参加される旨、また、高山委員も遅れて参加される旨の御連絡をいただいておりますので御了承願います。

本日、佐藤部会長をはじめ、8名の委員に御出席いただく予定でございます。行政評価委員会条例第4条第2項及び第6条第6項の規定により、委員の半数以上とされている定足数を満たしておりますことから、会議は有効に成立していることを御報告いたします。

次に、会議の公開についてですが、行政評価委員会運営規程第5条の規定により、当会議は公開といたします。また、正確な議事録の作成のため、本会議については録画等させていただきますので御了承願います。

それでは、次第2の議事に移らせていただきますが、ここからの進行については、行政評価委員会条例第4条第1項及び第6条第6項の規定により佐藤部会長に議長をお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

○佐藤部会長 委員の皆様お忙しいところ、そして大変暑い中、特に会場においでいただいた先生方ありがとうございます。

今日は最終判定となりますため、時間もかかるかもしれませんので、早速議事に入らせていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事1、令和8年度政策評価・施策評価に係る県民意見について事務局から説明願います。

○佐々木企画・評価担当課長 それでは資料1を御覧ください。

1に記載のとおり、意見の募集につきましては、6月10日から7月10日までの31日間行いました。

2の提出方法といたしましては、県のホームページでの提出に加え、従来どおり郵便、ファクシミリ、電子メールとなっております。

3 情報の提供手法ですが、できるだけ多くの媒体で広報に努め、インターネットでの掲載のほか、県政情報センター等での公表を行っております。また、周知方法としましては、県政だより「県からのお知らせ」欄の掲載のほか、DATE FMラジオでの呼びかけ、メールマガジン、さらにはSNSの活用としてFacebook及びXでの配信、県庁の総合案内等でチラシの配布をお願いしました。また、6月24日県庁1階で行われたロビーコンサートでチラシを配布し、約330人の来場者への意見募集の呼びかけも行ったところです。

資料には特に記載しておりませんが、今年度は御意見をいただくためにはまず見てもらうことからと考えまして、生成AIを活用してチラシの全面改定を行ったところでございます。

画面に表示しておりますが、これまで文字だけで読みづらかったものを、内容が一目見て分かりやすいようにということで改善を図ったところでございます。

結果として、昨年度に引き続き1件の御意見をいただいたところでございます。

資料戻りまして、2ページを御覧ください。

いただいた意見の関連する施策としては施策2「宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興」、施策3「地域の底力となる農林水産業の国内外への展開」に関する内容となっております。

意見の概要の詳細は割愛いたしますが、観光施策に関しての御意見で、観光の数から質への転換、オーバーツーリズムによる地域住民の生活環境への影響に対する懸念、VIP層の誘致による地域経済への波及効果といった内容となっております。また、そのための具体策として食のブランド化などの御提案を頂戴したものととなっております。

それに対する県の対応を担当課に作成いただいておりますが、県としましても今後、持続可能な観光地域づくりにおいて極めて重要な視点であると認識していること。また、数だけでなく質の向上も意識した数値目標も追加していること。令和8年度は滞在期間、観光消費単価ともに高い傾向にある欧米豪などの新規市場の開拓に向けた取組を推進するなど、御意見にあった高付加価値な旅行者層の取り込みも図っていることや、オーバーツーリズムへの対応について、県で行っておりますブランド化や販路拡大への取組等を記載したほか、最後にいただいた御意見につきまして今後の参考とさせていただくということを記載しております。

なお、県民意見の反映状況につきましては評価書を取りまとめた後、公表させていただくこととしております。

資料1の説明は以上でございます。

○佐藤部会長 ありがとうございます。県民の方も、我々が見ているものと同じ原案を見て今のお話のような御意見、というよりも御提案だと思いますが、内容をいただいたということです。

原案に対する異議申し立てのようなことではありませんでしたが、もし原案に対しての異議のようなことが仮に多くの県民からも指摘があれば、多くの県民がそう思っているのであれば、我々の判断もそれを踏まえた上での最終判定ということもあり得ると思います。

今回の御指摘はそうではないと受け止めておりますが、何か御質問や、御意見はありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、議事1はこれで終了とさせていただいて、続きまして2の令和8年度政策評価・施策評価に係る審議について、に入らせていただきます。資料2を御覧ください。

こちらは令和8年度政策評価・施策評価に対して、これまで先生方が出していただいた質問の一覧で、これまでの全部まとめていただいたものになります。

それと本日の資料3ですが、5ページ目にあります、ローマ数字のⅣの審議結果一覧表及び6ページ目のⅤの評価原案に係る宮城県行政評価委員会の意見におきまして、事前質問の提出状況や、第1回、第2回部会でのヒアリング等を踏まえて、施策の評価原案に対する政策評価部会と

しての仮の判定案及び意見案を、事務局において現時点のものを整理していただいているということです。

記録に基づいて既に、意見も入れていただいております。この資料につきまして事務局から説明をお願いできればと思います。

○佐々木企画・評価担当課長 資料2を御覧ください。

資料につきましては、直前となりましたが事前にお送りさせていただきまして、非常に細かい資料となっております。詳細な説明を省かせていただきますが、第1回、第2回目の部会でのヒアリング、ヒアリング対象でない施策への2回の事前質問の御意見や質問を、項目分けして取りまとめたものでございます。

それを踏まえまして、資料3 答申案後半部分5ページ、先ほど部会長から御説明のありました審議結果一覧表について、こちら委員会の「適切」または「要検討」の判定について、これから御議論をお願いします。

8つの政策とそれにぶら下がる18の施策のうち、現在「適切」と記載しているものは、第1回、第2回の部会での審議の仮判定状況となっております。

これに加えて、次のページに、判定に付すべき意見ということで、これまでいただいた御発言から、載せるべきものと考えたものを整理してたたき台として書かせていただいております。これから御議論いただきまして、このたたき台について修正、追加等をお願いしたいと思います。

なお、本日急遽ではございましたが、参考になればと1枚資料を用意させていただいております。施策ごとに、目標指標の達成度の割合の高い順に並べたものを、審議の参考ということでお使いいただければと考えまして、お配りさせていただき、メールでもお送りしているところでございます。

私からの説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○佐藤部会長 これから御審議いただきますが、通常の流れですと、政策1を構成する施策1から3までを御議論いただきますが、ここで館田先生がかなり影響あると思うのですが、まだお入りいただいていないので順番を変えてもいいか、どうでしょうか。御説明のとおり、政策は8つあり、施策が18ありますので、通常でいきますと政策1の施策1から3を判定して政策1の判定、次に施策の4、5と進んでいくのですが、事務局どうでしょうか。高山先生もまだお入りいただいてないので。

○佐々木企画・評価担当課長 審議の順番としては、経済系を後回しにさせていただいて、例えば政策3の子育て、政策4の教育辺りから始めていただくのはいかがでしょうか。

○佐藤部会長 政策3の施策6、7ですかね。そのようにさせていただいていいですか。早く館田先生、高山先生が入っていただけるのを祈っております。

まず、施策6。こちらは「やや遅れている」で、特にヒアリングをしたわけではないですが、いかがでしょうか。御準備いただいた参考資料ですと、昨年も今回も「やや遅れている」で同じですね。御質問等された先生でも構いませんし、「適切」と「要検討」のどちらか。それから、御意見があれば意見を付すということでした。

○狩野委員 育児休業の取得率が低かったり、目標を達成していない項目などが多く、この中には出てきませんが、合計特殊出生率も下から数えてまだまだ下の方という状況も含めると、全体評価としては「やや遅れている」で「適切」だと思います。

○佐藤部会長 他にいかがでしょうか。

○菅原委員 私も同じ意見です。内容自体を見ると「遅れている」にしてもいいぐらいの気持ちは去年からあるのですが、目標指標の達成率等の全体から見ても、この評価で「適切」とは思いま

す。やはり育休の取得率がまだ低いままであるということに対しても、粘り強い啓発活動をするということで取り組まれているとは思いますが、企業に啓発を促すということにプラスして、全体的な機運というか、全体的に皆さんが子育てをしたいと思える環境にあるかというところがまだまだだなと思うところも大きいです。

先ほど御指摘のあった合計特殊出生率もありますし、全国的に見てもまだ遅れているところが大きいと思うので、この評価で妥当かなと思います。

○佐藤部会長 施策6は「適切」判定で。意見は何か付すことがありますでしょうか。既にご書いていただいているものがありますが、それに加えてあればどうですか。付け加えることがもしあれば、よろしいですか。

○西川委員 この部分は本当に宮城県にとっても将来に関わる部分ですよね。本当に大事な部分だと思いますので、昨年やや遅れているのですが、やはりもう少し力を入れてもらわないと困るなというところはあると思います。

全国的にもそうなのだと思いますが、そうは言いつても、育児休業の取得や保育所の利用待機もやはり達成度Dということなので、将来に向けても宮城県にとって大事な分野だということを理解して、もう少し積極的に力を入れてお願いしたいと思います。

○佐藤部会長 もしかすると、来年度もあまり改善が見られないと「要検討」と来年度は判定されてしまいかねないような危機感がもしかしたらありますか。

そうならないように、激励も含めた部会からの意見ということで書いていただいて。

○西川委員 そうですね。危機感ですね。

○菅原委員 本当にそのとおりで、地域格差が結構激しくなっているというか、子どもの数が減っているということに加えて、集まるところにはすごく集まっていて、児童クラブなどもギュウギュウの状態だけれども、そうでないところが児童クラブをやめざるを得なかったり、整理・統合とは違う観点で考えていかなければいけないと思います。例えば、子どもを預けるにも遠くまで行かなければならないとなると、それはおかしいのではないかと思いますし、とにかく少子化の現状と、それをきちんとニーズをすくい取れるようなきめ細やかな取組をきちんと県としても考えていただきたいなと思います。

○佐藤部会長 はい。県内一様ではないという話ですね。

○菅原委員 はい。

○佐藤部会長 貴重な御意見ありがとうございます。館田先生どうぞ。

○館田副部会長 すみません。遅れて入りました。

○佐藤部会長 御意見があったわけではなく、入室されたということですね。

○館田副部会長 そうですね。すみません。今入ったところでした。

○佐藤部会長 先生が遅れていらっしゃるだったので、順番を変えて施策6から審議始めました。後ほど施策1に戻ります。施策6につきましては以上でよろしいですか。

続いて施策7についてはいかがでしょうか。こちらも昨年度も今回も「おおむね順調」で変わらないわけですが、これは仮判定「適切」にしていましたね。

○佐々木企画・評価担当課長 はい。

○佐藤部会長 いかがでしょうか。ヒアリングした施策でやり取りをした先生、特にいかがでしょうか。仮判定のままでいいのではないか、あるいは見直した方がいいということがあれば。

○狩野委員 審議をしたテーマでもありますので、仮判定のままでいいと思います。ただ、この中で市町村によって様々な実情というか、進んでいるところ、進められないところなどあるというお話も出ていたので、そういった御意見を追加いただければいいのかなと思います。私のメモの中に、「市町村の実情に応じた対応」というメモ書きがあったものですから、その辺りを踏まえ

ていただけるとよいと思います。

- 佐藤部会長　そうですね。先ほど施策6のところでも、地域格差というのが共通の観点であると私も思いますね。

判定としては「適切」でいいでしょうか。特に強い御意見がないので仮判定の「適切」のままでもよろしいですか。ありがとうございます。

御意見は今も追加していただきましたが、他にありますか。よろしいでしょうか。

それでは、施策7は以上とさせていただきます、政策3です。こちら、施策6「やや遅れている」と施策7「おおむね順調」が1つずつで、「やや遅れている」という政策の原案になっています。政策評価についてはいかがでしょうか。

施策評価はA、B、C、Dの数に応じた基本的な考え方あったかと思いましたが、政策評価については何かありましたでしょうか。

- 佐々木企画・評価担当課長　政策は施策の状況からということになりますので、それ以上の特に決まりはなく、施策の状況から政策の評価を行っております。

- 佐藤部会長　その考え方からすると、政策3は「おおむね順調」という原案を作っても良かったかもしれないけれど、そうでなく、記載の理由から政策としては「やや遅れている」と評価原案が出されていると。

- 阿部課長補佐兼企画員（班長）　高山先生も入られました。

- 佐藤部会長　はい。では後で施策1に戻しましょう。

政策3についてはよろしいですか。強い御意見がないようでしたら遅れている側になっているのでいいでしょうか。政策3については「やや遅れている」の原案で「適切」とさせていただきます。政策についての意見も付すことができましたでしょうか。

- 佐々木企画・評価担当課長　はい。

- 佐藤部会長　政策3についての意見は何かありますか。施策をうまくやっていただければいいということでしょうけれども、特によろしいですか。必ず意見を付さないといけないというものでもないですから。

- 佐々木企画・評価担当課長　昨年度ですと、政策に関する意見はなく、施策の集合体のような形ですね。

- 佐藤部会長　特別何かあればということなのでしょうけれども。よろしいでしょうか。

- 西川委員　先ほどおっしゃったように、地域格差が結構あるというのがこの政策のところで大事な部分だと思っているので、施策で書いてありますが政策のところでも地域格差について、しっかり県として認識しながら進めてほしいと言っておいた方がいいかなと思いますがいかがでしょうか。

- 佐藤部会長　それだけ大事なことだということが言えるかと思いますね。では政策3の意見としても、今書いてあるとおりに付したいと思います。ありがとうございます。ではよろしいですか。

高山先生聞こえていますか。

- 高山委員　はい、大丈夫です。聞こえています。

- 佐藤部会長　お疲れ様です。遅れて入室された先生方がいらっしゃったので、審議の順番を変えて進めていたところでしたが、ここから政策1の施策1から遡り本来の順番にさせていただいて、審議していきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、政策1の施策1。昨年も今回も「おおむね順調」で同じです。これはいかがでしょうか。「適切」か「要検討」になりますが、事前質問には舘田先生、高山先生の名前がいっぱいあります。事前質疑等のやり取りも踏まえて最終判定をしていただければと思います。

施策1についての意見は特に今までなかったと。まず、「おおむね順調」の原案についてはい

かがでしょうか。御意見がある先生おっしゃっていただければと思います。それでいいのではないということも含めまして、いかがですか。

○阿部課長補佐兼企画員（班長） 高山先生オッケーマークが出ております。

○佐藤部会長 館田先生もよろしいでしょうか。特に御意見がなければ「適切」となりますが。

○館田副部会長 去年は「やや遅れている」でしたか。

○佐藤部会長 去年も「おおむね順調」ですね。

○館田副部会長 「おおむね順調」でいいかなと思います。

○佐藤部会長 それでは、施策1は「適切」とさせていただいて、意見は何か付した方がいいことがあればおっしゃっていただければと思いますが、特段よろしいですか。

○高山委員 遅れて失礼いたしました。気になった部分として、ナノテラスの部分の回答を見た時にも、支援はしているが最終実績がまだないといったところがあったりもしたので、その意味で言うと、利用支援はあるけれど実際の活用がないところについては、「おおむね順調」ではいいと思いますが、今後も引き続き注視していくべきみたいなことはあるかと思います。

○佐藤部会長 ありがとうございます。そのほかいかがですか。

○西川委員 このままでいいですが、企業の立地件数や誘致もうまく進んでいるし順調だと思いますが、そうは言いましても世界情勢が刻々と変わり、原油価格も高騰している中で、原材料の価格も上がってきて、それによって利益も難しくなっていたり、出荷数も伸び悩んでいるということもここから見えているので、県として世界情勢をにらみながら、臨機応変にサポート体制をしっかりと実施してほしいと思います。あまり固く考えなくて、年度ごともちろん大事ですが、世界情勢をにらんで臨機応変に対応をしっかりとしてほしいということを是非お願いしたいなと思いました。

○佐藤部会長 ありがとうございます。それでは施策1については以上でよろしいですか。

では次に進ませていただいて施策2。こちらは面白いですね。去年は「やや遅れている」から一気に今回「順調」ということです。原案が「順調」になっていますが、いかがでしょうか。

○高山委員 こちらも私からコメントしてよろしいですか。ここは「適切」とせざるを得ないかなと思っていますというのがありつつ、コメントに付すのは、本当に施策効果なのか外的要因なのかというのがすごく不明確な領域だなと思っているので、実際にこの施策の評価という意味で言うと、施策効果が明確な点はもう少し付記していただけるとありがたいかなと思いました。例えば、宿泊の総額だったりすると外的要因が大きい部分が多いかなと思ったりもしたので、その辺りは少し施策との直接的な効果といったことがもう少し明確だと良いかなと思っていました。以上です。

○佐藤部会長 ありがとうございます。追い風部分がどれくらいあるかという話ですね。貴重な意見だと思います。

その他意見についていかがでしょうか。施策2はよろしいでしょうか。

それでは先に進ませていただきます。施策3、こちらは去年が「おおむね順調」で今回「順調」に改善した原案になっています。しかもAが7つもあるという状況になっています。いかがでしょうか。

皆さんそれぞれ施策3については事前のやり取りがありましたですね。農林水産、これは西川先生からよく御発言があるところかと思いますが。

○西川委員 一応達成していますので、よろしいと思うのですが、ここもやはり本当に世界情勢の変化でかなり刻々と変わっていく中で、不安定な部分もありますので、そこは随時注視して欲しいということを付したいなと思います。

○佐藤部会長 「順調」で「適切」と。他の先生いかがですか。高山先生頷いていただいている。

- 館田副部長 これは前回よりも評価が良くなったのは、目標値の見直しで今回AやBが多くなったといった要因はあったでしょうか。
- 佐々木企画・評価担当課長 基本的には目標指標自体は変わっていませんので、例えば、農業産出額は昨年度Dだったものが目標達成ということでA、園芸産出額も昨年度Dだったものが目標達成でA、林業産出額も昨年度CだったものがBになったということで、基本的に項目が変わらないものの、目標を達成できたということでAになってございます。
- 館田副部長 目標達成できたのは、数値が昨年度より上がったのか、それとも一旦仕切り直して今回が初年度だから達成したのか、どちらですか。
- 佐々木企画・評価担当課長 農業産出額は、昨年度評価では1,924億円だったものが、今年度の評価の令和6年実績が2,494億円ですので、これは伸びてA達成ということになっています。園芸産出額は、昨年度評価で324億円でしたが、今年度評価で378億円ですので、これも伸びてA評価ということになっています。林業産出額は、昨年度97.3億円で、今年度101.6億円ではありますが、こちらは進捗管理の高い目標に向かっていく指標から、現状維持型に変えたというところもあって、実績が初期値より下がっておりますがBという評価になっています。食料品製造業の付加価値額が昨年度Cだったものが今年度Bになっていますが、昨年度実績が2,407億円、今年度が2,472億円ですので、伸びてBという形になりますから、それ以外は基本的にAになりますので、林業産出額だけ目標設定のタイプが変わったことによって評価が若干上がったというところがございます。
- 館田副部長 ありがとうございます。数値が伸びているということなので、その上での「順調」ということであればいいかなと思います。少し意識として、農林水産業が「順調」なのかと言われると、なんとなく「うん」とは言いづらい面もありますが、評価としては「順調」でもいいと思いました。
- 佐藤部長 それでは、施策3は「順調」で「適切」ということにさせていただいて、施策3に対する御意見があればお願いします。よろしいですか。施策3も閉じさせていただいて、政策1です。政策1は「順調」ですね。
- 佐々木企画・評価担当課長 施策1「おおむね順調」、施策2「順調」、施策3「順調」でしたので。
- 佐藤部長 施策が3つあるうち、2つが「順調」、1つが「おおむね順調」で、政策は「順調」ということですが、いかがでしょうか。強い意見がなければ「適切」となりますね。よろしいでしょうか。また、政策1に対しての御意見があればお願いします。大丈夫そうですね。
- それでは次に進ませていただきまして、政策2の施策4。これはヒアリングもして仮判定もあります。施策4産業人材のところ、昨年は「やや遅れている」で今回「おおむね順調」の原案になっています。いかがでしょうか。
- 西川委員 これは前回議論になった施策ですかね。Aが5でDが4で、これでいいのかという話だったと思うので、ここは少し慎重に考えた方がいいかなと思います。Dになっている部分を見ると、労働環境の整備が遅れているなというところを感じるの、ここは他にAがあっても、これから足を引っ張る可能性もあるわけですから、慎重に考えて「やや遅れている」でもいいのではないかなとも思いますが、その辺り皆様の御意見伺いたいと思います。
- 佐藤部長 いかがでしょうか。仮判定は仮の判定ですので、変更しても全然問題ないと思います。今日があるので仮判定ではこうしておきましょうといったところもあると思います。いい方向を考えれば、全体に占めるAの割合といったこともあります、逆もありますね。全体に占めるDの割合みたいなことも考えることができるので、西川先生のお話はそういうところをもっと重く受け止めるべきではないかというような感じだと思いますが、他の先生方がいかがですか。「お

おむね順調」の原案を、「要検討」にするかということについて、になりますね。舘田先生どうぞ。

○舘田副部長 「おおむね順調」でもいいのかなと思うのですが、就業率や高校生の就職率は、高くなって当然というか、今はもう人手不足ですので、逆に企業は人が採用できなくて困っています。その辺りの逆の指標がないというか、就業率や就職率が高まっているのが、高山先生が他の項目でおっしゃっていましたが、この施策によるものなのか、世の中の動きによるものなのかという辺りが難しいなと思っていて、一次産業も含めて今回のこの施策4の産業人材の育成と環境の整備というお題目から言った時に、これは「おおむね順調」と捉えていいのかどうかというのは若干疑問が残るなというのは個人的には感じました。「おおむね順調」でいいと思いますが、もう少し環境整備や産業人材の育成というところをもっと多面的な観点で見ていただけるといいのかなと思いました。

○佐藤部長 委員会としての意見にも記載した方がいいようなお話だとは思いますが、判定としては「おおむね順調」でもいいのではないかなという話ですね。他の先生方がいかがですか。

○高山委員 ここに付記する話でもないですが、前々から思っていた課題感として、ここの達成度を因数分解した時に、施策のお金かけたとか評価がちょっと上のページにあったと思いますが、要はどの事業がどの指標に効いているのかといったこともちょっと分かりづらいと思っている部分があります。ここでコメントに付記することではないと思いますが、舘田先生のことに重ねていうと、例えばこの資料でいうとAやBとPDFの24ページにあって、それが23ページのどの事業効果で上がったのかといったことが、完全に要素分解はできないと思いますが、その辺がもう少し関連づいて見えると施策の良し悪しや、個別の詳細の良し悪しの判定につながるかなとは思っていました。今回は「おおむね順調」でいいと思いますし、ここで言うことなのかどうかも今疑問に思いながら話したのですが、その辺りが他の政策・施策も含めて疑問が残るところが多いなと思っていましたという感想の話で恐縮ですけど、以上になります。

○佐藤部長 施策4については「おおむね順調」で「要検討」まではしなくていいのではないかなという雰囲気なので、よろしいですか。「適切」とした上で、仮判定のままでですね。御意見としては、舘田先生の話を追加していただいたということでよろしいですか。

次に施策5。こちらは昨年も「順調」で今回も「順調」です。Dが逆にここはないですが、特によろしいでしょうか。施策5はあまり御指摘も多くはなかったですね。高山先生、事前の質疑もあったようですがどうでしょうか。

○高山委員 良いかなと思っていますというのと、回答もきちんといただけているかなと確認もしていたので、ここはあまり大きな疑問はないです。

○佐藤部長 「適切」でよろしいですか。では施策5の意見は何かありますか。大丈夫そうですか。高山先生もうなずいていただいている。

それでは政策2ですね。

○佐々木企画・評価担当課長 「おおむね順調」です。

○佐藤部長 施策4「おおむね順調」と施策5「順調」で「おおむね順調」。政策2も「適切」で良さそうですね。政策2は「おおむね順調」で「適切」。政策2に対する意見がもしあればお願いします。大丈夫そうですね。

それでは先に進ませていただいて、政策3は先ほど行いましたね。

○菅原委員 先ほどの政策3については、今コメントがない状態になっていますか。「やや遅れている」ですので、きちんとコメントを入れた方がいいかなと思いました。遅れていることに対して、どうして欲しいかということや、何か意見があった方がいいかなと思って今考えていました。ありきたりな内容ではありますがやはり改めて、少子化や担い手不足ということも指摘がされて

いましたが、少子化や担い手不足というのはますます深刻化していくので、ここに書かれている従来どおりの取組を続けるというだけではなく、何か実効性のあるもの、あるいは結果に現れるようなものを考えていただきたい。また、私が質問した時にNP0との連携というところをお伺いしましたが、結局担い手不足となった時に頼らざるを得ないのは市民ボランティアやNP0というところになってくるとは思うのですが、もっとたくさんいろんな可能性、力を持った人たちがいると思うので、そういうところをもっと掘り起こしていただきたい。特定のNP0といったことではなく、そうすると他が育たなくなってしまうので、色々なところを活用していただいて、多様な人々あるいは組織と連携できるような体制、施策の展開をお願いしたいです。

○佐藤部会長 ありがとうございます。今の話は政策3全体に対してですね。その意見を付けさせていただきますましょう。

それでは先に進ませていただいて、次は政策4の施策8。施策8は昨年も「やや遅れている」で今回も「やや遅れている」です。この政策は軒並み「やや遅れている」になっています。「やや遅れている」だから「要検討」にすると「遅れている」になってしまいますが、ここはいかがでしょうか。ここは教育ですか。

○佐々木企画・評価担当課長 はい。教育です。

○佐藤部会長 特によろしいですか。御意見がなければ「適切」になりますがよろしいですか。特に御意見ないようなので、施策8の御意見はもう一つ入れていただいています、追加すべき意見がありましたらお願いします。御意見はないですか。

先に進みまして施策9。これは昨年「おおむね順調」だったものが「やや遅れている」になったという原案ですね。

○西川委員 先ほどの施策8は若い方、小・中学校の生徒の学力に関して勉強時間が少なくなって、体力まで落ちているような中で、希望を持てなくなっている。この施策9になると、学校の色々な情報の開示が遅れている感じなのでしょうか。素人的な発想で申し訳ないですが、この「安心して学び続けることができる教育体制の整備」のところでDが3つもあり、保護者に対して学校を公開している学校の割合や、保護者に対して学校公開実施している学校の割合、学校関係者に評価を広く公表しているといった、そういう少し閉鎖的な環境になっているのかなと思います。保守的という悪いかもしれませんが、宮城県の教育環境というのが、少し感じられるなと素人的な考えでは思っていました。それで、学んでいる生徒も将来像がよく見えない。親御さんもその辺りよくわからないという形で、少し教育の部分というのは、これだけ見ると立ち遅れている部分があるのかなという気がしてならないです。Dが増えて多くなっているのは少し心配です。学校教育庁の問題かもしれませんが少し心配だなと思っていました。

○佐藤部会長 原案を「要検討」とするまでではないという雰囲気でもよろしいですか。

○佐々木企画・評価担当課長 部会長からお話のありました地域協働本部の活用について、そういうのがあのに学校公開が進まないという話があったので、今回意見としては少し書かせていただいています。

○佐藤部会長 私はこの政策4で共通するところだろうと思って、政策についての意見として改めて申し上げようかなと思いましたが、他の施策を意識しながら別の施策をやると一石三鳥ぐらいになることがあると思います。そこだけをなんとかやろうとしていくと、そこだけで終わってしまうのかもしれませんが、勿体ないと思います。それぞれの個別の事業、事業間あるいは施策間の連携というか、その枠組みをうまく活用して、これもできてしまうのではないかとことが多分にあると個人的にはそう思っております。そうすると、どこかの施策が上がっていくと、他の施策も自ずと上がっていくといったことになっていけるし、そうしていくべきではないかと思います。

むしろ、他が上がっていかないと全体が上がっていかないみたいなことに、この学校と家庭地域の連携の云々になると、そういうことなのかなと思っています。

今発言させていただいたので、政策4の全体としての意見としては、施策間や事業間の連携、それはそっちの事業なので私たちは関係ないと言われるかもしれませんが、うまく枠組みや取組を連携しながら取り組んでいくと、できていくようなことがあれば、どんどんそれでやっていくといいのではないかなと思います。

御質問させていただいたのは、学校公開というのは何を以て学校公開している、できてないということですかと質問をさせていただきました。回答としては結構なハードルがあるようで、ここまでやれば公開しているとしていますといった御回答をいただいていたかと思いましたが、それにしてもせっかく協働本部やコミュニティ・スクールなりが動いていたら、防災訓練などにも、そういう枠組みは防災のためだけにあるわけではないですが、うまく活用すればいいのに、と常に思っています。政策4にうまい具合に意見をまとめていただければありがたいです。

施策9については、判定がまだ確定していなかったでしょうか。

○佐々木企画・評価担当課長 はい。

○佐藤部会長 「やや遅れている」ですね。「適切」ということでよろしいですか。皆さん頷いていらっしゃる。施策9の意見はもう出していただいた私の意見を入れていただいておりますが、他にありますか。

ここで言っている地域学校協働本部となった時に、コミュニティ・スクールだけが導入されている学校の場合は、これ協働本部の中に含まれるのでしょうか。「等」としてもらった方がいいのか、協働本部は学校支援協働本部と一緒にになったら協働本部と定義されるのでしょうか。枠組みが導入されていないところは、どんどん連携枠組みを導入してほしいと思っております。これまたコミュニティ・スクールも県立学校は県としても直接推進していけますが、市町村は市町村の教育委員会になってしまうので役割分担もあるのだろうなとは思いますが、単に導入すればバラ色の世界があるわけではないですが、せっかく作ったそういう連携枠組みをうまく運用していくことができればなと思っております。他によろしいですか。では施策9をここで閉じて、政策4はどうでしたか。

○佐々木企画・評価担当課長 「やや遅れている」です。

○佐藤部会長 施策8「やや遅れている」、施策9「やや遅れている」で政策4「やや遅れている」ですね。では「適切」にさせていただいて、先ほど私が申し上げた政策4の全体に対する意見をうまく文章に仕立てていただきまして、よろしいでしょうか。

それでは先に進ませていただきまして、政策5の施策10です。これは仮判定がなされている施策で「おおむね順調」です。昨年も「おおむね順調」で今回も「おおむね順調」ですね。A、B比率が89%で「おおむね順調」なのですか。

○佐々木企画・評価担当課長 100%が多かったので、上から100%のものを「順調」と考えまして、そこから一つ落ちれば「おおむね順調」としています。

○佐藤部会長 「おおむね順調」は、一番上と一番下とではどちらに近いかというグラデーションがありますね。いかがでしょうか。強い御意見がなければ「適切」、仮判定のままになります。施策10よろしいですか。では「適切」で大丈夫ですか。仮判定のままとさせていただきます。施策の10に対する意見を、高山先生オッケーサインを出していただきました。御意見ありますか。特段よろしいですか。

それでは先に進みましょう。施策11。こちらは「やや遅れている」でした。施策11はAB比率が一番下ですね。昨年「おおむね順調」が今回「やや遅れている」、AB比率が40%という状況です。いかがでしょうか。文化・芸術スポーツ活動と生涯学習の振興。そもそも目標指標の数自体がそ

れぞれ違うというのもありますね。5つしかありません。金田先生や狩野先生に施策11のやり取りがありました。

○金田委員 私もいくつか質問したのですが、前は「おおむね順調」だったのに今回「やや遅れている」になったということですね。その「やや遅れている」になった要因はどうだったのかということと、私自身が質問したのはまなびのWEB宮城の閲覧数がなかなか上がらないということだったと思いますが、指標全体を見て、ページビューの数と、祭典の参加者の意識の変化のところでDがついていましたが、それで全体を見た時に「やや遅れている」というところで「適切」と思いましたが、去年との比較は今できていなかったの、どこが下がって「やや遅れている」になったのでしょうか。

○佐々木企画・評価担当課長 施策11については、昨年度もAが2でDが3という状況で、それほど良くはなかったところではありましたが、今年度は割合的には4割と下回っているということと、Dになった部分が、初期値から下がってのDというところもあり、「おおむね順調」とはなかなか言い難いと思いましたので、達成度の割合的にも「おおむね順調」にするのは難しいと思い「やや遅れている」にしました。

○金田委員 分かりました。なかなか「おおむね順調」が難しいというのであれば、これで「やや遅れている」で、「適切」ではないかなと思います。後でお話しようかなと思っていたのですが、施策8や施策9の「やや遅れている」は結構遅れていると思います。こちらはそれほど、「やや遅れている」にするほどでもないのかなと思ったのですが、今の御事情であれば「やや遅れている」でいいのかなと思います。

○佐藤部会長 施策11は「やや遅れている」で「適切」の判定でよろしいですか。特に強い御意見もないようですので、施策の意見に付すべきことがあればお願いします。

○館田副部会長 65ページの、課題の2つ目に文化活動の活性化実感の欠如とあり、意外と宮城県は文化などに関する関心が薄いとよく言われることがあります。文化芸術活動への関心が以前よりも低くなっているを書いてあるだけなので、この課題に対してどうしようと思っているのかという対策もしっかり考えていただきたいという意見をもし可能であれば書いていただければなと思いました。

○佐藤部会長 昔は課題と対応方針のような、課題だけではなく対応も記載がありましたでしょうか。

○佐々木企画・評価担当課長 おっしゃるとおり、昨年度までは課題と対応方針ということにしておりましたが、今年度からは総合政策課が一括で評価するということで、かつそれぞれの施策の対応方針を我々で書くのは困難であり、課題とさせていただきます。もちろんそういったことでしっかりやっていただきたいという御意見は記載いただいて構わないと思います。

○佐藤部会長 では館田先生のお話は意見として付させていただきます。他はよろしいですか。

それでは政策5全体。こちらは、上に合わせて「おおむね順調」になっていますね。

○佐々木企画・評価担当課長 考え方は色々あると思いますが、施策10の目標達成が89%ということで「順調」に近い「おおむね順調」と思いますが、「おおむね順調」と「やや遅れている」でも「おおむね順調」の方に引っ張って、政策としては「おおむね順調」と考えさせていただきます。

○佐藤部会長 政策を構成する施策が両極端だということですね。特段覆すほどのことはなさそうな雰囲気ですね。

○菅原委員 このままでいいと思います。まなびのWEB宮城の閲覧数が少ないというところにも少し引っ張られて「やや遅れている」という面もあると思いますが、県の社会教育はそれなり頑張

っていると思いますので、全体としては「おおむね順調」で良いと私は思います。

- 佐藤部会長 政策5は「適切」にして、政策5に対する意見はありますか。よろしいでしょうか。特段強い御意見がなさそうですので次に進みましょう。

政策6の施策12。仮判定済みですが、こちらは介護サービス。「おおむね順調」ですがAB比率から行くと一番下にありますね。去年は「やや遅れている」で、今回は「おおむね順調」にラインの中に入ったということですね。ヘルスのところと、介護のところですかね。ここは狩野先生がたくさん御質問いただいていたところですが、他の先生でもどうぞ。

- 狩野委員 質疑応答の時に、値は変わっていないのに目標値を変えたことでDからAに変わったというお話があったと思います。割合などから考えると、「おおむね順調」と言わざるを得ないところはあるのかなと思うのですが、状況が変わってないのに、目標値を下げたことでDからAに変わったというのが引っかかるころではあります。色々な事業を効果が出るような方法で展開をしていただくとか、あるいは事業をきちんと見直して、実効性のあるものに変えていただいたり、リニューアルしていただいたりしながら考えていただくというのは必要かなと思います。

- 佐藤部会長 判定自体はどうでしょうか。

- 狩野委員 判定自体はAが多さから見ると、「適切」です。

- 佐藤部会長 仮判定のまま「適切」で、他の先生方もよろしいでしょうか。御意見がなさそうですがよろしいでしょうか。それでは今お話しいただいた意見は入力していただいていますので、他にありますか。

- 菅原委員 まだ考えがまとまっていないのですが、確かにAとDの比率から言うと「おおむね順調」のラインに入るのかもしれませんが、Cが2つありますよね。そのCは看護師の確保と介護職員の数のところだと思います。課題のところでも確保が難しい、県外流出が解消されていないというところが認識はされていて、これは昨日今日の話ではないというか、以前からもちろん指摘もされてきていることで、実際の施策、それに対応する事業がどれか今ちょっとパッとこれというのはありませんが、その施策の効果が現れてないというところからすると、「やや遅れている」に近い「おおむね順調」なのかなと思います。「おおむね順調」になったというわけではないような感じがします。AとDの比率からすればそうですが、これまでとの比較であるとか、あるいは何か新しいことをやってその効果が出たということではないとすると、「やや遅れている」の方がいいのかなという気がします。

- 佐藤部会長 菅原先生の話だと、施策12は「要検討」ではないかという趣旨だと思います。もう1回考え直してという部会のメッセージということで、いかがでしょうか。

- 狩野委員 プラスマイナスがあるのだったら、マイナスをつけたくなりますね。おおむね順調(マイナス)のような意味合いですね。

- 佐藤部会長 要検討にしてくださいという部会としてのメッセージは全然いいと思います。それが最終的に変わりませんということは、県側の判断なので。

- 狩野委員 状況が変わっていないのに目標が下がったから、DからAになったというのは、それだけで順調ってことは確かに言えないかなと思いますので、「要検討」ということでもいいかなと思います。

- 佐藤部会長 それでは、施策12の仮判定は「適切」になっていましたが、「要検討」とさせていただきますでしょうか。意見は言っていたいたものがあるので、それを入れてもらうということですね。

次に施策13。こちら「おおむね順調」で昨年度も「おおむね順調」。こういう感じだといいですね。Aが3、Bが2、Cが1、Dが1と、だんだん左側に数字が寄っていってくれるといい方向にきているという変化を見られます。「おおむね順調」で「適切」で良さそうですね。施策13につ

いて意見ありますでしょうか。障害のところ、何かありますか。

先に進みまして、施策14。こちらは「順調」、昨年度の「おおむね順調」から今回「順調」になっています。そしてAが3、Bが1だから、これAB比率100%ですので「順調」という感じですが、施策14の判定は「適切」で良さそうですね。施策14に対しての意見は何かありますか。よろしいですか。

政策6、全体としては「おおむね順調」になっています。施策12「おおむね順調」（要検討）、施策13「おおむね順調」、施策14「順調」があって、「おおむね順調」で良さそうですね。政策6に対する意見のある先生はいますか。いらっしゃらない。

では先に進みましょう。施策15になりそうですね。こちらは昨年が「やや遅れている」で今回も「やや遅れている」。Aが3、Bが0、Cが2、Dが2。ここ環境のところですが丸尾先生いかがですか。

○丸尾委員 いろんな先生が言われたように、世界情勢や経済的なこともあり色々難しいことはあるとは思いますが、変化が早いところもあり、そういうところはあると思うのですが、それを見つつ県には是非効果的な展開をしていただきたいので、「やや遅れている」で妥当かなと思います。

○佐藤部会長 「適切」でいいのではないかとということですね。よろしいですか。では施策15を「やや遅れている」で「適切」にさせていただいて、意見が既にいくつか書いてありますが、追加の意見はありますか。良さそうですね。

それでは次の施策16。これは仮判定したものです。昨年も今回も「やや遅れている」になっています。施策15、施策16は下から3つ目、2つ目と苦しい戦い施策になっておりまして、両極端にいいものと悪いものが混在しているのと、どちらも良いもの、どちらも悪いものと色々ありますね。これは「やや遅れている」同士ですので、政策としても「やや遅れている」になりそうですね。

○佐々木企画・評価担当課長 施策16の仮判定がまだでしたので、お願いします。

○佐藤部会長 施策16ですね。「やや遅れている」で仮判定のまま「適切」でいいでしょうか。大丈夫ですね。意見として追加するものはありますか。大丈夫そうでしょうか。

それでは政策7ですね。「やや遅れている」で「適切」でよろしいでしょうか。政策7に対する意見ありますか。大丈夫ですか。

それでは最後に施策17。ここが「おおむね順調」、昨年は「やや遅れている」でしたが「おおむね順調」でAB比率が57%となっています。災害対策、いかがでしょうか。この辺りが微妙なところですね。「やや遅れている」と「おおむね順調」のラインのちょっと上のところで、先程の施策12と同じような感じがしないでもないですね。先生方の強い意見がなければ「適切」になりますが、いかがでしょうか。

○狩野委員 去年も言ったように思いますが、災害対策のハード面についてはAですが、ソフト面、災害時にどのように行動するのかとか、組織だったりといったものが、どうしても遅れがちで、達成度がDやCということを思うと、災害対策は「おおむね順調」と言っているのかというところはどうしても疑問に思うので、「やや遅れている」でもいいのではないかと思います。「要検討」ということになるでしょうか。

○佐藤部会長 私も一委員の立場で、自主防災組織の話や、地域と連携して防災訓練を実施している学校の割合など、危機管理課室のところが基本的に地域防災を推進されていますが、先程の話のように、学校と地域連携するのであれば、学校の施策や事業の方の、家庭地域と連携するという枠組みをそこでうまく活用すれば、防災訓練もできてしまうし、どれだけの充実した訓練ができるかは別ですが、「実施率」という数値は上がっていくのではないかと考えていて、先ほどの

発言もこういうところにも効いてくれば、自ずと災害対策のソフトの部分も、あちらもこちらも両方上がってくるみたいなことになっていくと常々思っています。

○西川委員 佐藤先生おっしゃるとおりで、地域と住民と連携した避難訓練は全然変わってないですね。全く上がってない。これはやっぱりダメですね。

○佐藤部会長 協働本部もコミュニティ・スクールも導入されているのだったらやってよと言いたくなります。どれだけのことができるかは別ですが、やること自体はできそうな気がします。施策17は「要検討」に部会としてよろしいでしょうか。ではそのようにさせていただきます、今お話ししたことを書いていただいたので意見も付させていただきます。

○佐々木企画・評価担当課長 先ほどと同様、地域学校協働本部「等」という形で。

○佐藤部会長 そうですね。何らかの連携枠組みがあれば、他の枠組みもありますよね。市町村独自の枠組みを設けたりしているところもあるので。石巻市は地域防災連絡会というのがありまして、石巻市はコミュニティ・スクールも全校導入しているのに、地域防災連絡会を3.11直後から取り組んでいる市町村独自のものもあったりするので。石巻はどんどんそういうところは進んでいます、他の市町村もそうになっていくといいなと思っています。

それでは最後の施策18。こちらは100%だから「順調」としかなりようがないですね。3つあるうち3つがこれ「順調」でよろしいですね。「適切」で。施策18に対しての御意見ありますか。なさそうですか。では施策18は「順調」、「適切」とします。御意見もなさそうですね。

それでは政策8は、要検討がありましたが、原案は施策17「おおむね順調」（要検討）、施策18「順調」と、間の「おおむね順調」になってもということはありませんね。政策8が「おおむね順調」でよろしいでしょうか。良さそうですね。では「適切」にします。政策8に対する意見がもしあればお願いします。なさそうです。

これで本日の議事の2番目が終了ということでよろしいですか。

○佐々木企画・評価担当課長 はい。

○佐藤部会長 ありがとうございます。今まとめていただいておりますが、続いて議事3です。答申案について、になります。今も入力していただいておりますが、資料3こちら答申案になっております。構成は毎年変わっているわけではないですね。

資料は御覧いただいているとおり、Ⅳの審議結果一覧表は先ほども整理していただいたものと、それから私どもの意見をⅤには記載していただくと。

答申のⅠからⅢの部分について、ここで御審議いただくということなので、事務局から説明をお願いします。

○佐々木企画・評価担当課長 資料3を御覧いただいて、1ページ、Ⅰの答申に当たって、それからⅡの調査審議の方法、2ページのⅢ調査審議の結果の1については定型的で部会長おっしゃったとおり毎年同じような構成になっており、ここは特に異論ない部分かなと思っています。

内容については昨年度と同様の表現でまとめており、日付の入れ替え、ただ今の判定の結果を数字として集計する部分になっております。

御審議いただきたいのが3ページの2政策評価・施策評価の判断等に付した主な意見のところでございます。

こちらの意見は、先ほど追加でいただいた意見はこれから文言調整してここに入れるかどうかという部分はありますが、8政策、18施策全体に対する総合的な意見ということで、これまでの審議であげられた内容を作成している部分でございます。

まず(1)の目標指標についてですが、ここは特に政策、施策に期待される成果の発現状況を客観的に測るための重要な尺度である一方で、社会経済情勢の変化のスピードが速く予測困難な分野では、固定化された現行の目標指標を継続して測定していくだけでは直近の実態や多様化す

る現場の状況を適切に把握できない懸念があるのではということで、目標指標のみでは多角的な成果を把握しにくい分野では、社会経済情勢として関連数値についても評価に反映させるなど実態に即した成果検証に努められたいとしています。

その他、目標値を累積とする指標では目標達成した場合に上方修正を図るなど、常に適切な目標設定を行うことが肝要としました。また、後期実施計画期間に向けては、現行指標の適切性を検証し、政策、施策の成果をより正確かつ県民に分かりやすく把握できるよう、目標指標の変更や新たなアウトカム指標の追加なども検討されたいとしています。

次に（２）の方向性ごとの成果についてですが、基本票は新・宮城の将来ビジョンに定める実現に向けた方向性ごとに事業の成果や目標指標の達成状況を整理して作成されていますが、記載されている事業と目標指標の関係性が不明確な施策、実現に向けた方向性に対して事業の数や内容が不十分と考えられる施策が見受けられるので、県民に成果が分かるように、各方向性における事業と目標指標の関係性を明瞭にし、必要な事業の追加や見直しを検討されたいとしています。

最後の（３）、政策評価・施策評価と課題についてですが、令和８年度から、事務局が一括して集約・作成する方式へと変更されましたが、事業担当課においては基本票と答申された指摘内容を真摯に受け止め、評価の作成プロセスの変更に埋没することなく、施策の企画・立案や効果検証においてそれぞれが強い主体性と責任感をもって県政の推進に努められたいと記載しています。

特に、複数年にわたり評価結果や指標の達成度に改善が見られない、いわば課題が固定化している政策・施策については、何がボトルネックになって改善傾向に移行できないのかを徹底的に要因分析すべきであり、その結果に基づき、真に効果のある事業へと選択・集中し、予算・人員等の行政資源を柔軟に傾斜配分する仕組みを合わせて検討して、確実な評価向上に向けた具体的な行動へ繋げられたいとしているほか、今回、中期実施期間の初年度であるということで、目標指標の一部見直しによって達成度としてはＡやＢとされていても、前年度からの実績値自体に改善があまり見られない事例も散見されるので、目標指標実績の内容を十分に吟味し、期間中の目標達成に向けた積極的な事業の推進に期待するとまとめさせていただきました。

以上３点、これまでの部会の中で皆様からいただいた、本日も含めて、意見としての集約とさせていただきます。

答申案の説明について、私からは以上となります。

○佐藤部会長 ありがとうございます。これまでお話出てきたことを、うまくまとめていただいているかと思いましたが、答申案のローマ数字のⅠからⅢの部分ですね。

○佐々木企画・評価担当課長 はい。

○佐藤部会長 いかがでしょうか。何か御意見などございますか。

○金田委員 もう出なくてはいけないので、ここのⅠからⅢのところのまとめ、これまでお話してくださったことをある程度抽象度上げて書いてくださっているなと思っていて、基本的にはこれでよろしいのかなと思っています。

ただ、先程申し上げようかなと思っていたというのは、この「特に複数年にわたり」というところに入るものの１つとして、先程も話題になっていた、学校関係や子どもの学びの育ち、文化芸術に関するところが軒並み遅れている状態が続いているということ。今回例えば学力に関して言えば仙台市が入ったことで、指標上は上がっていますが、あまり数年改善が見られないということもあったので、全体の話で、いっぱいある施策の中で置いていかれている、Ⅱが続き続けているものがあるのと同じように、全体の８政策を見た時も、政策４や先程佐藤先生もおっしゃったような地域協働学校に関わる場所というのが特に遅れを取っているなという印象を持って

いました。

それ自体を見直していくというのもそうなのですが、全体の中で少し加重を上げていただく必要があるのかなと考えたということです。どのように入れていただくかは別ですが、私からの意見は以上です。

○佐藤部会長 ありがとうございます。今金田先生からいただいた御意見は、この答申の中にうまく文章として盛り込むかは、この後事務局と私の方で調整をさせていただいて、どちらにせよ答申案は最終的に委員の皆様を確認していただいてから最終版にさせていただきますので、その際にまた確認いただければと思います。

○金田委員 ありがとうございます。すみません、先に失礼させていただきます。

○佐藤部会長 お疲れ様でした。それでは他にありますでしょうか。ⅠからⅢまでの中に表もありますね。8政策については全て「適切」で、意見は2つに対して申し上げました。施策については18で、うち「要検討」は2つ判定させていただいて、14施策に対して意見を付しました。施策に対しては毎年多く意見をつけさせていただいておりますが、このような取りまとめになっています。よろしいでしょうか。

○館田副部会長 (1)の主な意見のところは、これまで皆さん発言されたことがうまくまとまっていて、ここの記載に特に何か文句があるわけではなく、このままでもいいかなと思っております。

1つ聞きたかったのが、(1)の1番最後のところ、「後期実施計画期間に向けては、アウトカム指標の追加なども多角的に検討されたい」という辺りで、毎回そのようなお話もしている気もするのですが、この指標を新たに決めたりする時というのは、どうやって誰が決めているのでしょうか。部門の中で決まってしまうのか、それぞれの分野ごとに何か外部の方が入ったようなところで決まっているのか、この目標指標が意外と見直されていないので、どうやって決めているのか教えていただきたいと思いました。

○佐々木企画・評価担当課長 目標指標については、新・宮城の将来ビジョンの実施計画を立てる際に、それぞれの部局がこういう指標でどうかという原案を出してきたものについて、我々総合政策課の別班とで打ち合わせしながら、どの指標がいいかを検討します。最終的には県としての決定を、知事をトップとする政策・財政会議という会議の中で、この目標指標で行こうというように決定をされるという内容になっております。その件について、特段パブリック・コメントをするといったことはないですし、委員の意見を聞くといったこともありません。

○館田副部会長 分かりました。基本は県庁内で決まっていく指標ということですね。

○佐々木企画・評価担当課長 はい。そうです。

○館田副部会長 わかりました。多角的に検討されたいと思ったので伺いました。

○佐藤部会長 ありがとうございます。他はよろしいですか。

○丸尾委員 若干ズレているのかもしれませんが、政策評価や、施策評価をする時に、もう少し県民の方々の意見がどうだったのかを知りたく思うので、今回1件しか意見がなかったようですが、もう少し意見を取る方法を検討していただいて、それをお聞きしたいなと思いました。

○佐々木企画・評価担当課長 おっしゃるとおりで、毎年1件くらいしか意見がない状況でもありまして、今年度は冒頭に少し説明しましたが、見やすいようにチラシのデザインを工夫はしましたが、媒体として使う部分も増やしていければと思っておりますので、そこは検討させていただければと思います。

○佐藤部会長 丸尾先生の今の話は、答申の文章に直接対することではなく、ということですね。

○丸尾委員 はい。

○佐藤部会長 他にいかがでしょうか。よろしいですか。それでは答申案につきましては先程申し上げましたが、最終案は私と事務局で作成しまして、後日、委員の皆様にもメールでお送りしまし

て最終確認をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

今年度の答申についても、昨年度と同様書面で行うこととしたいと思いますし、答申日につきましても、私と事務局に一任していただければと思います。

それでは、本日の議題は以上になりますが、委員の皆様から予定の時間は過ぎてしまいました
が全体を通して何かございますか。よろしいですか。

○西川委員 答申書をしっかり担当課で読んでくださいとお伝えください。

○佐藤部会長 ありがとうございます。それではこれで、事務局に進行をお戻しします。お疲れ様
でした。

○阿部課長補佐兼企画員（班長） お疲れ様でした。それでは以上をもちまして「令和８年度第３
回宮城県行政評価委員会 政策評価部会」を終了いたします。本日は長時間の御審議誠にありが
とうございました。